

# ロボット戦略 世界分散ファンド

## 愛称:資産の番人

### 第8期運用報告書（全体版）

（決算日 2020年8月24日）

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	2016年9月30日から2026年8月24日まで	
運用方針	値上がり益の獲得を目指して運用を行います。	
主要運用対象	ルクセンブルク籍投資法人「マン・アンブレラ・SICAV」のサブファンドである「マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブ」が発行する外国投資信託証券「日本円クラス（ヘッジ付）」および国内の証券投資信託である「T&Dマネーアカウントマザーファンド」を主要投資対象とします。	
	マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブ・日本円クラス（ヘッジ付）	先進国および新興国の株価指数先物取引、債券先物取引、金利先物取引および為替先渡取引等を主要投資対象とします。
	T&Dマネーアカウントマザーファンド	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 外貨建資産への直接投資は行いません。 有価証券先物取引等の派生商品取引の指図は行いません。	
分配方針	毎決算時（2月と8月の22日、休業日の場合は翌営業日）に分配を行います。 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ただし、必ず分配を行うものではありません。	

### お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。  
さて、「ロボット戦略 世界分散ファンド」は、2020年8月24日に第8期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。  
今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

**T&Dアセットマネジメント株式会社**  
〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先  
**信営営業部 03-6722-4810**  
 （受付時間：営業日の午前9時～午後5時）  
<https://www.tdasset.co.jp/>

## 最近5期の運用実績、基準価額の推移等

### 最近5期の運用実績

決算期	基準価額			債券組入比率	債券先物比率	マン・ AHL ・ ダイバーシティ・ オルタナティブ・ 日本円クラス (ヘッジ付) 組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率				
4期 (2018年8月22日)	円 10,252	円 100	% △ 0.3	% —	% —	% 99.0	百万円 24,176
5期 (2019年2月22日)	10,004	0	△ 2.4	—	—	98.5	21,443
6期 (2019年8月22日)	11,744	100	18.4	—	—	97.9	14,872
7期 (2020年2月25日)	11,290	100	△ 3.0	—	—	95.4	15,396
8期 (2020年8月24日)	10,650	100	△ 4.8	—	—	96.8	14,514

(注) 基準価額および分配金は1万口当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは、特定の指数に連動すること・指数を上回ることを目的として運用していないため、また、運用方針に対し適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

### 当期中の基準価額等の推移

年月日	基準価額		債券組入比率	債券先物比率	マン・ AHL ・ ダイバーシティ・ オルタナティブ・ 日本円クラス (ヘッジ付) 組入比率
		騰落率			
期首 (前期末) 2020年2月25日	円 11,290	% —	% —	% —	% 95.4
2月末	10,961	△ 2.9	—	—	94.4
3月末	11,315	0.2	—	—	96.8
4月末	11,133	△ 1.4	—	—	98.2
5月末	10,878	△ 3.6	—	—	97.8
6月末	10,662	△ 5.6	—	—	95.8
7月末	10,853	△ 3.9	—	—	95.1
期末 2020年8月24日	10,750	△ 4.8	—	—	96.8

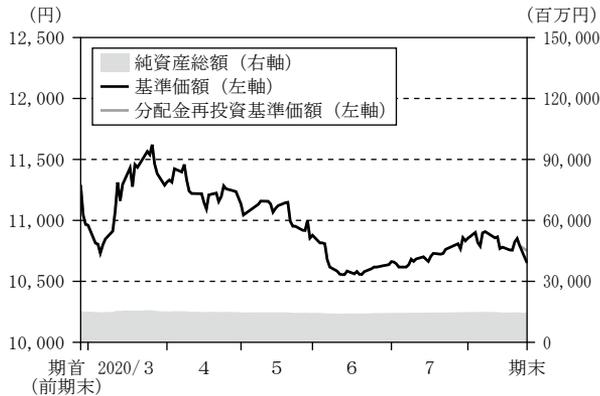
(注) 基準価額は1万口当たり。期末基準価額は分配金込み。騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは、特定の指数に連動すること・指数を上回ることを目的として運用していないため、また、運用方針に対し適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

## ■ 基準価額等の推移



第8期首：11,290円

第8期末：10,650円（既払分配金100円）

騰落率：△4.8%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、期首（2020年2月25日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

（注）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

## ■ 基準価額の主な変動要因

高位に組入れている「マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブー日本円クラス（ヘッジ付）」において、債券・金利セクターと通貨セクターがプラスに寄与したものの、株式セクターがマイナスに寄与したことから、基準価額（分配金再投資ベース）は下落しました。

## ■ 組入ファンドの当期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブー日本円クラス（ヘッジ付）	△4.3%
T&Dマネーアカウンタマザーファンド	△0.0

## ■ 投資環境

### 【株式市場】

期初から2020年3月下旬にかけては、WHO（世界保健機関）による新型コロナウイルスのパンデミック（世界的な大流行）宣言、協調減産を巡るロシアとサウジアラビア間の対立を背景とする原油価格急落などを受け、金融市場は混乱し、株価も大幅に下落しました。4月には、主要各国の積極的な財政金融政策が好感され、投資家の楽観姿勢が強まったことで株価は持ち直しました。5月から6月初旬にかけては、香港問題などを巡る米中対立激化が懸念され上値を抑える場面はありましたが、各国の経済活動再開の動きに伴い早期の景気回復期待が高まったことから株価は堅調となりました。6月中旬に、経済活動再開が進むなか、米国や中国などで感染再拡大が確認され、感染第2波への警戒感が強まり、上値の重い展開となりました。7月に入り、米国で予想を上回る経済指標や4－6月期企業決算発表を受け、株価上昇が見られましたが、7月末にかけ、米中が相互の総領事館に閉鎖命令を出すなど地政学的リスクの高まりから、株価はやや軟調展開となりました。8月以降は、欧米の好調な経済指標を受けて世界的に株価は上昇しました。

## 【債券市場】

期初から2020年3月上旬にかけては、新型コロナウイルスのパンデミックや原油価格の急落を受けて、投資家のリスク回避姿勢が強まり、国債利回りは急低下しました。その後、米ドルの現金需要急増から国債にも換金売りが出たことで、利回りが反発する局面もありましたが、3月末にかけて各国中央銀行連携による市場への大規模な米ドル供給実施を受け再び低下しました。4月に入り、欧米の新型コロナウイルス感染拡大ペース減速によるリスク回避姿勢の後退、大規模経済対策に伴う国債増発懸念等から金利が上昇する場面があったものの、相次ぐ経済指標の悪化を受けて低下に転じました。5月から6月初旬にかけては、主要国での段階的な経済活動再開やECB（欧州中央銀行）の追加金融緩和などを背景に、投資家のリスク選好が強まりましたが、その後FOMC（米連邦公開市場委員会）で実質ゼロ金利政策の長期化が示唆されたことや、新型コロナウイルス感染第2波、米中対立の深刻化に対する懸念を受け、7月末にかけてリスク回避の流れとなり金利は低下しました。8月以降は、世界的な株価上昇を背景に金利は上昇しました。

## 【為替市場】

期の前半は米ドルが堅調、2020年5月中旬以降は米ドルが軟化しユーロを始めとする他通貨が堅調となりました。期初から3月下旬にかけては、新型コロナウイルスのパンデミックによる金融市場の混乱を受け、基軸通貨である米ドルが逃避先とされたことから上昇し、その他通貨が下落しました。4月から5月中旬にかけては、財政悪化への懸念を背景に新興国通貨は引続き軟調に推移する一方、主要各国の金融緩和策や経済対策が出揃うなかりリスク警戒感が和らぎ、先進国通貨は全般的には方向感に乏しい展開となりました。5月中旬に仏独が欧州復興基金を提案した後は、良好なユーロ圏経済指標や、6月のECBによる追加金融緩和決定、7月の復興基金合意などを受けたユーロ圏経済の早期回復期待から、期末にかけてユーロが堅調となりました。一方で、米ドルは金融緩和の長期化観測や金融・財政政策を受けた実質金利の低下により、その他多くの通貨に対して軟化しました。その間、新興国通貨は、経済活動の再開や資源価格の復調などを背景に安定を取り戻しつつありましたが、期末にかけて外貨準備に不安のあるトルコリラなどは再び弱含みとなりました。

## 【国内短期金融市況】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期首の $\Delta 0.13\%$ から期末は $\Delta 0.09\%$ となりました。期中においては、需給悪化懸念や日銀の国庫短期証券買入オペ動向を巡る不透明感などが金利上昇要因となり、海外勢による需要や担保需要などが金利低下要因となりました。

## ■ 当該投資信託のポートフォリオ

### 【当ファンド】

「マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブー日本円クラス（ヘッジ付）」の組入比率は概ね高位を保ちました。また、「T&Dマネーアカウントマザーファンド」を組入れました。

## 【マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブー日本円クラス（ヘッジ付）】

主として先進国および新興国の株価指数先物取引、債券先物取引、金利先物取引および為替先渡取引等を投資対象とし、システムチック運用により、買建（ロング）ポジションと売建（ショート）ポジションを取ることで、市場の上昇および下落双方の局面においても収益を追求することを目的として運用を行いました。

## 【T&Dマネーアカウントマザーファンド】

国庫短期証券の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、期を通じて組入比率は0%としました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

## ■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載していません。

## ■ 分配金

1万口当たりの分配金（税込み）は、基準価額水準等を勘案し、100円とさせていただきました。収益分配に充てなかった利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ■ 今後の運用方針

### 【当ファンド】

「マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブー日本円クラス（ヘッジ付）」の組入比率を高位に保ち、「T&Dマネーアカウントマザーファンド」を組入れた運用を行う方針です。

### 【マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブー日本円クラス（ヘッジ付）】

主として先進国および新興国の株価指数先物取引、債券先物取引、金利先物取引および為替先渡取引等を投資対象とし、システムチック運用により、買建（ロング）ポジションと売建（ショート）ポジションを取ることで、市場の上昇および下落双方の局面においても収益を追求することを目的として運用を行います。

### 【T&Dマネーアカウントマザーファンド】

日本経済は、当面、国内外における新型コロナウイルスの感染拡大の影響から厳しい状態が続くとみられます。また、インフレ率についても、新型コロナウイルスの感染拡大や原油価格の下落などの影響を受けて弱含むとみられます。こうしたなか、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、国庫短期証券や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1 万口当たりの費用明細 (2020年 2 月 26日から2020年 8 月 24日まで)

費用の明細

項目	当期		項目の概要
	2020/ 2 / 26～2020/ 8 / 24		
	金額	比率	
平均基準価額	10,967円		期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬	55円	0.500%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	( 23)	(0.207)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	( 30)	(0.277)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	( 2)	(0.016)	運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	1	0.009	(b) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監査費用)	( 1)	(0.009)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	( 0)	(0.000)	その他は、金銭信託に係る手数料
合計	56	0.509	

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

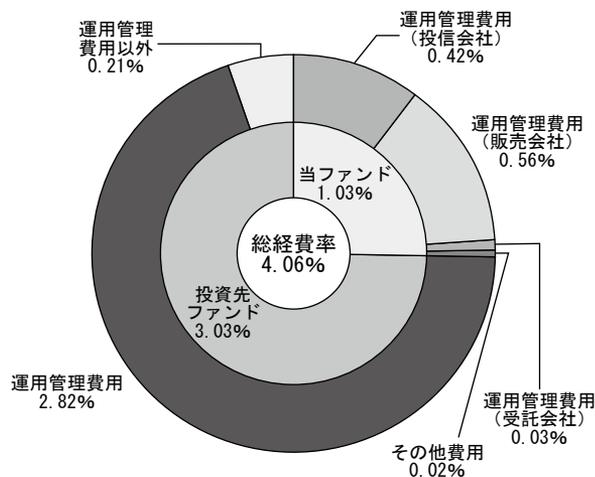
(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券(親投資信託を除く。)が支払った費用を含みません。

(注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は、4.06%です。



総経費率 (①+②+③)	4.06%
①当ファンドの費用の比率	1.03%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	2.82%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.21%

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券(親投資信託を除く)です。

(注) ①の費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) ②の費用は、基本報酬と成功報酬で構成されています。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

売買および取引の状況 (2020年2月26日から2020年8月24日まで)

(1) 投資信託証券

当期における売買はありません。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

当期における設定、解約はありません。

利害関係人との取引状況等 (2020年2月26日から2020年8月24日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2020年8月24日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ア ン ド 名	期首 (前期末)	当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブ ー 日 本 円 ク ラ ス (ヘ ッ ジ 付)	1,242,166	1,242,166	14,052,956	96.8

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	期首 (前期末)	当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額	額
T&Dマネーアカウントマザーファンド	49	49		49

(注) T&Dマネーアカウントマザーファンド全体の受益権口数は198千口です。

(注) 単位未満は切捨て。

## 投資信託財産の構成 (2020年8月24日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブ ー日本円クラス(ヘッジ付)	14,052,956	95.1
T&Dマネーアカウントマザーファンド	49	0.0
コール・ローン等、その他	716,749	4.9
投資信託財産総額	14,769,754	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

## 資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

### 資産、負債、元本および基準価額の状況

2020年8月24日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	14,769,754,811円
コール・ローン等	716,748,570
マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブ ー日本円クラス(ヘッジ付)(評価額)	14,052,956,345
T&Dマネーアカウントマザーファンド(評価額)	49,896
(B) 負 債	255,084,584
未払収益分配金	136,283,198
未払解約金	43,435,433
未払信託報酬	74,076,312
未払利息	1,423
その他未払費用	1,288,218
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	14,514,670,227
元 本	13,628,319,834
次 期 繰 越 損 益 金	886,350,393
(D) 受 益 権 総 口 数	13,628,319,834口
1 万 口 当 たり 基 準 価 額(C/D)	10,650円

(注) 期首元本額 13,637,979,418円  
 期中追加設定元本額 2,025,164,622円  
 期中一部解約元本額 2,034,824,206円  
 (注) 1口当たり純資産額は1.0650円です。

### 損益の状況

当期 自2020年2月26日 至2020年8月24日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 200,718円
支 払 利 息	△ 200,718
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 587,685,102
売 買 損 益	46,630,986
売 買 損 益	△ 634,316,088
(C) 信 託 報 酬 等	△ 75,365,066
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	△ 663,250,886
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	767,954,351
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	917,930,126
(配 当 等 相 当 額)	( 852,252,326)
(売 買 損 益 相 当 額)	( 65,677,800)
(G) 合 計(D+E+F)	1,022,633,591
(H) 収 益 分 配 金	△ 136,283,198
次 期 繰 越 損 益 金(G+H)	886,350,393
追 加 信 託 差 損 益 金	917,930,126
(配 当 等 相 当 額)	( 852,252,326)
(売 買 損 益 相 当 額)	( 65,677,800)
分 配 準 備 積 立 金	891,520,362
繰 越 損 益 金	△ 923,100,095

(注) 損益の状況の中で  
 (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。  
 (C)信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。  
 (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

### 分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(852,252,326円)および分配準備積立金(1,027,803,560円)より、分配対象収益は1,880,055,886円(1万口当たり1,379円)であり、うち136,283,198円(1万口当たり100円)を分配金額としております。

## 分配金のご案内

分配金および分配原資の内訳 (単位：円・%、1万口当たり・税引前)

項目	当期
	2020年2月26日 ～2020年8月24日
当期分配金	100
(対基準価額比率)	0.930
当期の収益	—
当期の収益以外	100
翌期繰越分配対象額	1,279

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金(特別分配金)となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金(特別分配金)となります。

※元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、個別元本から元本払戻金(特別分配金)を控除した額がその後の新たな個別元本となります。

## 補足情報

### T&Dマネーアカウントマザーファンドにおける主要な売買銘柄

当期における売買はありません。

### T&Dマネーアカウントマザーファンドの組入資産の明細

当期末における組入れはありません。

## 組入投資信託証券の内容

マン・アンブレラ・SICAV－マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブー日本円クラス（ヘッジ付）

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

分 類	ルクセンブルク籍／外国投資信託／円建
運用の基本方針	中期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。
投資態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進国および新興国の株価指数先物取引、債券先物取引、金利先物取引および為替先物取引等を積極的に活用し、主として市場動向の方向性にそって多数の先物等についてロングポジションまたはショートポジションを構築することにより、中期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。</li> <li>・先進国および新興国における多くの市場を対象としたシステムチック運用により、市場の上昇および下落局面においても収益を追求します。</li> <li>・原則として、コモディティ市場への投資は行いません。</li> <li>・投資運用会社の判断によりレバレッジを活用します。</li> <li>・資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。</li> </ul>
主な投資制限	<p>有価証券（先物等のデリバティブ取引は含みません。）の空売りは行いません。          純資産総額の10%を超える借入れは行いません。          一発行会社の発行済株式総数の50%を超えて、当該発行会社の株式に投資しません。          流動性にかける資産の組入れは10%以下とします。</p>
決 算 日	毎年12月31日
分 配 方 針	原則として分配は行いません。
管 理 会 社	MDO マネジメント カンパニー S. A.
投資運用会社	AHL パートナーズ LLP

※次ページ以降の記載は、マン・グループ・ジャパン・リミテッドより入手した「マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブ」の監査済報告書および保有明細をもとに作成しております。当社は、その内容の正確性・完全性を保証するものではありません。当該記載は監査報告書の入手可能な直近の決算日現在のものです。

※「マン・アンブレラ・SICAV－マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブー日本円クラス（ヘッジ付）」は、「マン・アンブレラ・SICAV」のサブファンドである「マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブ」が発行する円建外国投資信託証券です。

マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブ

(1) 純資産変動計算書

計算期間：2019年1月1日から2019年12月31日

	(単位：米ドル)
期首の純資産額	269,538,222.65
収益	
債券利息	1,633,298.74
銀行利息	2,969,831.99
収益合計	4,603,130.73
費用	
運用報酬	2,238,949.75
管理会社費用	55,526.00
成功報酬	4,714,934.92
受託銀行手数料	74,789.07
登録、事務代行、名義書換事務費用	198,616.51
監査費用、印刷および発行費用	86,316.04
年次税	31,589.03
銀行利息	99,039.09
取引手数料	209,765.80
その他費用	120,691.15
費用合計	7,830,217.36
投資に係る純損益	( 3,227,086.63)
有価証券売却に係る実現純損益	5,177.72
外国為替先渡取引に係る実現純損益	4,073,602.16
先物取引に係る実現純損益	51,196,351.80
外国為替取引に係る実現純損益	949,519.46
実現純損益	56,224,651.14
未実現損益の変動：	
－有価証券投資	( 104,729.56)
－外国為替先渡取引	( 11,908,107.87)
－先物取引	( 7,476,319.37)
運用の結果による純資産の増減額	33,508,407.71
資本変動額	
追加設定金額	50,601,141.07
一部解約金額	(138,627,166.40)
当期末の純資産額	215,020,605.03

(注) 日付は現地基準です。

(注) ( ) 書きは負数です。

(注) 「マン・AHL・ダイバーシティ・オルタナティブ」における「日本円クラス(ヘッジ付)」の決算期末の持分比率は72.7%です。なお、持分比率は監査済報告書の情報をもとに当社が算出したものです。

## (2) 組入資産の明細

作成基準日：2019年12月31日

## (A) 債券

銘柄名	数量	通貨	簿価	評価額
			米ドル	米ドル
United States Treasury Bill 0.00% 26/Mar/2020	15,000,000	USD	14,877,171.87	14,945,890.50
United States Treasury Bill 0.00% 23/Jan/2020	10,000,000	USD	9,918,493.75	9,991,046.00
United States Treasury Bill 0.00% 20/Feb/2020	20,000,000	USD	19,829,620.00	19,957,338.00
United States Treasury Bill 0.00% 19/Mar/2020	5,000,000	USD	4,955,289.93	4,983,758.50
United States Treasury Bill 0.00% 7/May/2020	4,000,000	USD	3,969,330.56	3,978,149.60
United States Treasury Bill 0.00% 14/May/2020	10,000,000	USD	9,922,321.39	9,942,345.00
United States Treasury Bill 0.00% 18/Jun/2020	10,000,000	USD	9,912,120.83	9,926,332.00
合計			73,384,348.33	73,724,859.60

## (B) 為替先渡取引（上位10銘柄）

通貨		評価額	評価損益
買い	売り		
		米ドル	米ドル
JPY	USD	205,232,624.13	( 598,619.79)
EUR	USD	142,180,245.51	1,158,685.63
USD	JPY	125,129,819.77	( 313,294.72)
USD	CHF	120,481,120.44	(2,524,355.49)
USD	EUR	119,432,624.20	(1,659,912.34)
MXN	USD	101,735,389.98	2,954,286.65
USD	CAD	95,376,221.81	(1,679,506.56)
CHF	USD	89,668,063.04	1,391,077.69
GBP	USD	86,099,998.62	1,865,308.65
CAD	USD	78,985,935.84	982,164.79

(注) 日付は現地基準です。

(注) ( ) 書きは負数です。

## (C) 先物取引（上位10銘柄）

買い			
銘柄名	通貨	評価額	評価損益
90 Day Sterling Future	GBP	米ドル 31,890,606.00	米ドル ( 11,971.07)
SPI 200 index	AUD	24,790,055.59	(685,802.73)
10 Year US Treasury Note Future	USD	22,987,514.73	(132,125.93)
S&P 60 Future	CAD	19,802,833.55	45,461.49
TAIEX Future	TWD	16,244,378.55	( 8,763.31)
FTSE MIB Future	EUR	15,886,693.19	26,660.00
Swiss Market Index Future	CHF	15,764,512.32	142,901.38
Euro-BTP Futures	EUR	14,541,561.76	(154,839.48)
CAC40 Index Future	EUR	14,330,614.86	24,662.82
Topix Index Future	JPY	13,146,469.79	21,250.74
売り			
銘柄名	通貨	評価額	評価損益
10 Year Japanese Bond	JPY	米ドル 71,424,860.70	米ドル ( 9,111.41)
10 Year Government of Canada Bond Future	CAD	44,466,228.74	412,028.95
Euro Bund Future	EUR	30,980,658.55	272,337.54
90 Day Eurodollar Future	USD	25,569,925.00	9,762.50
Bank Acceptance Future	CAD	16,041,918.06	6,536.13
3 Month Euribor	EUR	11,523,770.93	7,978.09
Euro Buxl Futures	EUR	5,118,025.46	39,046.38
Euro-OAT Futures	EUR	4,747,056.83	8,816.56
20 Year US Long Bond	USD	4,209,468.75	10,125.00
SET50 Index Future	THB	3,554,721.96	( 5,873.31)

(注) 日付は現地基準です。

(注) ( ) 書きは負数です。

## T & D マネーアカウントマザーファンド

運用報告書（全体版） 第7期（決算日 2019年9月10日）  
（計算期間 2018年9月11日から2019年9月10日）

「T & D マネーアカウントマザーファンド」は、2019年9月10日に第7期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目標として運用を行います。
主要運用対象	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	外貨建資産への投資は行いません。 株式への投資は行いません。

### 最近5期の運用実績、基準価額の推移等

#### 最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債組入比率	債先物比率	純資産額
	期騰落	中率			
3期（2015年9月10日）	円 10,020	% 0.0	% —	% —	百万円 43
4期（2016年9月12日）	10,016	△0.0	—	—	8
5期（2017年9月11日）	10,012	△0.0	—	—	4
6期（2018年9月10日）	10,006	△0.1	—	—	2
7期（2019年9月10日）	10,000	△0.1	—	—	2

(注) 基準価額は1万円当たり。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

## 当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額 騰 落 率	債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	券 率	券 率
期首(前期末) 2018年9月10日	円	%	%	%	%
	10,006	—	—	—	—
9月末	10,006	0.0	—	—	—
10月末	10,005	△0.0	—	—	—
11月末	10,005	△0.0	—	—	—
12月末	10,004	△0.0	—	—	—
2019年1月末	10,004	△0.0	—	—	—
2月末	10,003	△0.0	—	—	—
3月末	10,003	△0.0	—	—	—
4月末	10,002	△0.0	—	—	—
5月末	10,002	△0.0	—	—	—
6月末	10,001	△0.0	—	—	—
7月末	10,000	△0.1	—	—	—
8月末	10,000	△0.1	—	—	—
期 末 2019年9月10日	10,000	△0.1	—	—	—

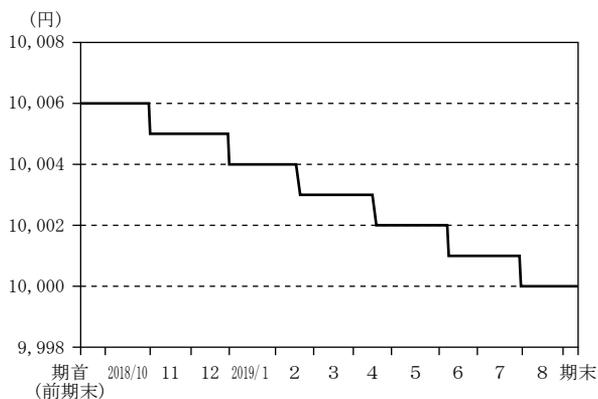
(注) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

## 当期の運用状況と今後の運用方針

### ■ 基準価額の推移



### ■ 基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首の10,006円からスタートし、期末は10,000円へ下落しました。運用対象であるコールローンの利回りがマイナスで推移したため、小幅な下落となりました。

## ■ 投資環境

### 【国内短期金融市場】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期首の△0.13%から期末は△0.18%となりました。期中においては、需給悪化懸念や日銀の国庫短期証券買入オペ動向を巡る不透明感などが金利上昇要因となり、海外勢による需要の高まりや担保需要などが金利低下要因となりました。

## ■ 当該投資信託のポートフォリオ

国庫短期証券の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、期を通じて組入比率は0%としました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

## ■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

## ■ 今後の運用方針

日本経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、緩やかな回復が続くことが期待されます。インフレ率は緩やかに上昇していくことが見込まれるものの、依然、基調的なインフレ圧力は弱く、インフレ期待が急速に高まる可能性は低いとみられます。こうしたなか、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内短期金利は低位で推移すると予想します。相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、国庫短期証券や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

### 1万口当たりの費用明細（2018年9月11日から2019年9月10日まで）

#### 費用の明細

項目	当期	
	2018/9/11～2019/9/10	
	金額	比率
平均基準価額	10,002円	
その他費用 (その他)	0円 (0)	0.001% (0.001)
合計	0	0.001

(注) その他費用のその他は、金銭信託に係る手数料です。

### 売買および取引の状況（2018年9月11日から2019年9月10日まで）

当期における売買はありません。

### 利害関係人との取引状況等（2018年9月11日から2019年9月10日まで）

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## 組入資産の明細 (2019年9月10日現在)

当期末における組入れはありません。

## 投資信託財産の構成 (2019年9月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 2,289	%
投 資 信 託 財 産 総 額	2,289	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

## 資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

### 資産、負債、元本および基準価額の状況

2019年9月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	2,289,472円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	2,289,472
(B) 負 債	4
未 払 利 息	4
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	2,289,468
元 本	2,289,524
次 期 繰 越 損 益 金	△ 56
(D) 受 益 権 総 口 数	2,289,524口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	10,000円

(注) 期首元本額 2,499,373円  
 期中追加設定元本額 189,963円  
 期中一部解約元本額 399,812円

(注) 元本の欠損  
 当期末現在、純資産総額は元本を下回っており、その差額は56円です。

(注) 1口当たり純資産額は1,0000円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本の内訳  
 T&D日本株ファンド(通貨選択型)マネーブルコース 2,189,637円  
 ロボット戦略 世界分散ファンド 49,921円  
 ロボット戦略II 世界成長ファンド 49,966円

### 損益の状況

当期 自2018年9月11日 至2019年9月10日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△1,485円
支 払 利 息	△1,485
(B) そ の 他 費 用 等	△ 27
(C) 当 期 損 益 金 (A + B)	△1,512
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	1,607
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	37
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 188
(G) 合 計 (C + D + E + F)	△ 56
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	△ 56

(注) 損益の状況の中で

(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(F)解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。